

## 機器・試薬セミナー：10月8日（土）13：00～15：00

機器・試薬セミナー1（従来セッション）（13：00～15：00）

第2会場（国際会議室）

座長：横崎 典哉（広島大学）  
：堀田 多恵子（九州大学病院）

### ■機器・試薬セミナー1-1「生化学・免疫検査 cobas family コンセプトの展望」

演 者：近藤 篤仁（ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社）

（準備中）

ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社

### ■ 機器・試薬セミナー1-2「卓上型の全自動化学発光酵素免疫測定装置 AIA-CL300 のご紹介」

演 者：木下 俊佑（東ソー株式会社 バイオサイエンス事業部）

当社の AIA-CL システムは高い測定性能、操作性などの点でご好評を頂いている。今回は大型機の性能や操作性を継承した卓上型の「AIA-CL300」（最大 30 test/h）を紹介する。

#### (1) サイズ

- ・ 520 (W) x 640 (D) x 660 (H)

#### (2) 性能

- ・ 全専用試薬（57 項目以上）が測定可能
- ・ 大型機同等の基本性能、データ互換性を確保
- ・ 最短 15 分の結果報告時間

#### (3) 操作性

- ・ ワンタッチ測定
- ・ 自動検体希釈、自動校正試薬調製
- ・ 日常点検予約機能

「AIA-CL300」をラインナップに加え、AIA-CL システムはお客様の環境・状況に応じて様々な形で貢献できるシステムとなった。

東ソー株式会社

### ■機器・試薬セミナー1-3「東ソー自動グリコヘモグロビン分析計 HLC-723GR01 の性能紹介」

演 者：村越 早絵（東ソー株式会社 バイオサイエンス事業部）

異常ヘモグロビン症検知に対応した、『HLC-723GR01』を開発し、その基礎的検討を行ったので報告する。

#### 【主な仕様】

測定項目：HbA1c、HbF

測定原理：高速イオン交換クロマトグラフィー（HPLC 法）

処理速度：30 秒/検体（Short モード時） / 50 秒（Long モード時）

#### 【基本性能】

同時再現性および日差再現性（n=10）は C.V. 1%以下。

従来機 HLC-723G11 との相関（n=120）は  $Y=1.00X-0.04$  ( $r=1.00$ )。

**【結語】**

今回開発した東ソー自動グリコヘモグロビン分析計「HLC-723GR01」は、高い再現性と従来機と良好な相関性を有する。

東ソー株式会社

**■機器・試薬セミナー1-4「著しく溶血した検体に対する「メタボリード HbA1c（酵素法）」の対応について」**

演 者：堀尾 匡史（ミナリスメディカル株式会社 CR 推進部 学術グループ）

HbA1c は、糖尿病患者の合併症を防ぐための血糖コントロール指標としてだけではなく、糖尿病患者を早期に発見し、早期に治療するうえでも重要な検査の一つとして位置付けられている。そのため、現在多くの医療機関で検査が実施され、HPLC 法、免疫法、酵素法など様々な測定法が普及している。昨年、2021 年 6 月に、日本糖尿病学会糖尿病関連検査の標準化に関する委員会より、遠心処理後に測定する HbA1c 測定法において、著しい溶血の影響により、HbA1c の結果が低値になるとの注意喚起がなされ、各方面の対応が望まれている。本機器試薬セミナーにおいては、当社が販売しているメタボリード HbA1c（酵素法）における、糖尿病学会からの声明文に対する対応を報告する。

ミナリスメディカル株式会社

**■機器・試薬セミナー1-5「新たな P O C T 分析装置「蛋白質分析装置 ラピッドピア II」のご紹介」**

演 者：戸川 勝也（積水メディカル株式会社 検査事業部 製品開発・戦略部）

積水メディカルは、2022 年 1 月に「蛋白質分析装置 ラピッドピア II」（以下、ラピッドピア II）を発売致しました。ラピッドピア II は、「蛋白質分析装置 ラピッドピア」（以下、ラピッドピア）の後継機種であり、コンパクトな形状かつシンプルな操作性といったラピッドピアの特長はそのままに、新たな機能が追加されました。今回の機器・試薬セミナーでは、カラータッチパネル搭載やバーコードリーダー内蔵、バッテリー駆動対応を実現し、よりユーザビリティが向上したラピッドピア II の特長について紹介致します。

積水メディカル株式会社

**■機器・試薬セミナー1-6「新規(1→3)-β-D-グルカン測定試薬「β-グルカン シングル M30 テストワコー」と分析装置「リムセイブ MT-7500」の紹介」**

演 者：藤井 勉（富士フィルム和光純薬株式会社）

弊社では、1997 年よりカプトガニ血球抽出物である LAL (Limulus amoebocyte lysate) 試薬を用いた比濁時間分析法を測定原理とする(1→3)-β-D-グルカン測定試薬を販売してきたが、測定に 90 分必要であった。昨秋、カプトガニ血球抽出物と発色合成基質から調製した LAL 試薬を用いた発色合成基質法試薬「β-グルカン シングル M30 テストワコー」および測定用装置「リムセイブ MT-7500」を発売し、測定時間を 20 分と大幅に短縮することを実現した。

本セミナーでは、「β-グルカン シングル M30 テストワコー」ならびに測定用装置「リムセイブ MT-7500」の特徴および基本性能について詳しく紹介する。

富士フィルム和光純薬株式会社

機器・試薬セミナー2-(従来セッション) (13:00~15:00)

### 第3会場（レセプションホール）

座長：通山 薫（川崎医科大学）  
池本 敏行（滋賀医科大学医学部附属病院）

#### ■ 機器・試薬セミナー2-1「日立自動分析装置 3500 における血液凝固検査機能のご紹介」

演者：福山 美智子（株式会社 日立ハイテク）

当社は、1971年に生化学自動分析装置の国産第1号機を出荷して以来、[ISE]測定、[HbA1c]自動溶血などの機能を追加することで、検査業務の効率化に貢献してまいりました。

2018年からは、さらなる検査業務の効率化を目的として、[生化学]、[ISE]、[HbA1c]に加え、[高感度ラテックス免疫]、[血液凝固]検査を1台で可能とした日立自動分析装置 3500を開発し、出荷しております。

本セミナーでは、当社独自の技術として開発した[血液凝固]の分析機能に関する当社の取り組みについてご紹介させていただきます。

株式会社日立ハイテク

#### ■ 機器・試薬セミナー2-2「血液凝固分析装置 S400CFのご紹介」

演者：深谷 厚輔（積水メディカル株式会社 製品開発・戦略部）

検査が多様化・迅速化する中、積水メディカルは、国内外の市場ニーズに対応すべく、装置や試薬の開発・改良を行ってきました。中でも2013年10月に上市した「血液凝固自動分析装置 CP3000™」では、お客様の要望を取り入れた上で、コンパクトな形状ながら高性能・簡便操作を実現しました。

この度、多くのお客様の声を基に、更なる多様化・迅速化への対応やユーザビリティ向上を目指し、上位機種「血液凝固自動分析装置 S400CF」（以下、S400CF）を発売しました。

今回の機器・試薬セミナーでは、本装置の特長について紹介させていただきます。

積水メディカル株式会社

#### ■ 機器・試薬セミナー2-3「遺伝子検査の新しいパートナー cobas® 5800 システム」

演者：田立 恵子（ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社）

（準備中）

ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社

#### ■ 機器・試薬セミナー2-4「全自動輸血検査装置 Erytra Eflexis の特徴と改良ソフトウェアのメリットについて」

演者：中島 康裕（株式会社カイノス 学術部学術二課）

カイノスは、2011年にグリフォルス社（スペイン）と提携、全自動輸血検査装置 2機種とともに輸血検査市場に参入し、11年が経過しました。2018年には Erytra Eflexis が新たにラインナップに加わり、顧客ニーズに沿ったソフトウェアのバージョンアップを順次重ね、機能の拡充や不具合の改善を図っております。

今回は、Erytra Eflexis の特徴と新たにリリースされたソフトウェア改良のメリットについてご報告します。ユーザー操作性向上のために新しい機能を追加し、ルーチン業務効率化へ向けて提供し続けて参ります。

株式会社カイノス

■機器・試薬セミナー2-5「最新の採血業務支援システムの動向について」

演 者：西村 和也（株式会社テクノメディカ）

本機器試薬セミナーでは、採血業務支援システム『Assist More』のオプション機能を活用した最新の採血室運用の動向について紹介する。オプションの中には昨今のコロナ禍の状況から採血室待合の混雑緩和、患者の待ち時間ストレス軽減や待ち時間の適正化を目的としたメール WEB システム、診療予約オプション機能などがあり、最新の採血室の導入動向として徐々に活用シーンが増えてきている。今回、複数あるオプション機能の中から、採血の状況を動画記録及び参照できる採血の信頼性向上を目的とした採血レコーダーシステムと導入事例及び導入効果を紹介し、採血技術向上へのスマートな採血サポート機能の提案を開始する。

株式会社テクノメディカ

■機器・試薬セミナー2-6「分析前プロセスの精度管理物質「リクイチェック血清インデックス」のご紹介」

演 者：植村 康浩（バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社 診断薬マーケティング部）

検体サンプルの色調は、吸光度分析を測定原理とする生化学検査において、検査値に影響を及ぼす干渉因子であるため、分析前に溶血（Hemolysis）、黄疸（Icterus）、脂肪血症／乳び（Lipemia）の色調を確認することは、検体サンプルの完全性を保証する上で重要です。

「リクイチェック 血清インデックス」は、生化学自動分析装置の HIL 検出性能のモニタリングを目的に開発された参考値なしの精度管理物質で、H、I、L、N（陰性／非干渉）の4種類を準備しています。本セミナーでは、CLSI C56-A（臨床検査における干渉の指標としての溶血、黄疸、脂質血症／濁度指数のガイドライン）や本製品の海外での評価データ等についてご紹介します。

バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社